

入社して4カ月あまり。新米の事件担当としてデスクや先輩に怒られる日々だが、私も22歳の「うら若き乙女」。すてきな恋だってしたい。聞くところによると、北九州にはNPO法人が選んだ「恋人の聖地」がいくつもあるという。来るべき日に備え、三つの聖地を一人で偵察してみた。

橋の上に立つと、眼前には青い関門海峡、頭上には青い空。JR門司港駅から歩いて5分。門司港レトロ地区にかかる跳ね橋「ブルーウィングもじ」は、青の世界に包まれていた。

恋人の聖地

午後3時前「まもなく、ブルーウィングもじが開きます」。景色を楽しんでいると、愉快的音楽と共にアナウンスが流れ、橋が開き始めた。

ブルーウィングもじは1日6回開閉する。「橋が閉じて最初に手をつないで渡った2人は一生結ばれる」という伝説があるらしい。

開橋から約20分後、橋は閉まった。私はときどきしながら手をつないで渡る情熱的なカップルの到来を期待したが、待つこと30分、橋を通過した22組の男女はいずれも手をつないでいない。なぜか。「だって、暑いでしょ。そういう気にならないよ」。話を聞いたか

ツプルはそう答えたが、やはり幸せそうだ。

伝説の是非は、自分で確かめるしかないのかな。

JRに乗り、次に降り立ったのは遠賀川駅（遠賀町）。バスに乗り換え、揺られること約30分、「夏井ヶ浜はまゆう公園」（芦屋町）にたどり着いた。

県天然記念物のハマユウが立派な白い花を咲かせ、見ごろを迎えていた。公園の奥に進むと、断崖絶壁の上に訪れた人が自由に鳴らすことができる鐘がある。ここが聖地「響愛の鐘」。永遠の愛を誓う鐘の音が響灘に「響き合う」

というのが名前の由来だそう

時刻は午後6時半。夕日の光が海面に映り込み、オレンジ色に揺らめく。一生の愛を誓い合うにはぴったりな場所だが、私は鐘を鳴らさなかった。「いつの日か、すてきな男性とともに鳴らそう」。私はそう心に決め、公園を後にした。

八幡東区の皿倉山（622.2m）に着いたのは、日も暮れた午後8時。JR八幡駅からは、皿倉山ケーブルカー山麓駅まで走る無料シャトルバスですぐだった。

ケーブルカーとスロープカーを乗り継ぎ、約10分で山頂。皿倉山の夜景は「新日本三大夜景」にも選ばれており、すでにカップルや親子連れでいっぱいだ。

「100億の夜景」とも言われる眺望に見とれていると、明るく点滅する建物が目に入った。展望台の「天空ドーム」だ。

一人でドームに入ると、若いカップルと出会った。交際を始めて2カ月という小川航さん（18）と江頭里織さん（19）。照れくさそうに「きれいな夜景を眺めながら、2人でゆっくりとした時間を過ごせたい」と話してくれた。

カップルたちの恋心を高めるには、ロマンチックな景色は効果抜群なようだ。あと一押し勇気が必要なそのあなた、聖地巡りはお勧めですよ。（西村雪乃）

絶景が勇気くれる



①「100億の夜景」に浮かぶ皿倉山の「天空ドーム」
②夏井ヶ浜はまゆう公園の「響愛の鐘」のそばで愛を語り合う2人

三つの恋人の聖地巡り
JR小倉駅を起点に門司港—遠賀川—八幡—小倉の運賃総額は大人1490円。遠賀川駅—はまゆう公園のバス往復運賃は同620円。皿倉山のケーブルカー・スロープカー往復運賃は同1200円。所要時間は6～7時間。